

都市再生整備計画 事後評価シート
千曲川リバーサイド地区

平成25年 3月

長野県上田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	上田市		地区名	千曲川リバーサイド地区		面積	585ha	
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	1,594	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	市道上田橋中島線(道路)、市道榑下泉平線、市道泉平9号線、市道南天神町坂下線							
			提案事業	なし							
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
			基幹事業	市民広場	関連事業の交流・文化施設整備事業と密接に関係したが、工程等から整備計画期間内での完了が困難となり削除した。			影響なし			
	新たに追加した事業		基幹事業	市道泉平5号線、市道古舟側道6号線、(仮)南天神町第2公園、市道上田橋中島線(高質空間形成)	生活道路における歩行者等の安全を確保するため(市道2路線)道路事業に合わせた憩いの空間を創出するため(公園)基盤整備をさらに充実し快適な道路空間を創出するため(高質化)			影響なし			
提案事業			踏切横断道路整備事業、別所線再生支援事業	道路事業に付随して、既存踏切2ヶ所の廃止が必要となったため生活に密着した公共交通機関である上田電鉄別所線の安全で継続的な運行に対する支援を行うため			数値目標を追加				
交付期間の変更		当初	平成20年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	(主)長野上田線の歩行者数(平日12時間)	人/日	227	平成17年度 340	平成24年度 125	1,397	○	あり なし	事業の実施や商業施設の開店により目標とする歩行者数があった。	-
	指標2	区域内の歩道整備率	%	11	平成17年度 78	平成24年度 -	60	△	あり なし	用地交渉の不調や道路整備に伴う条件整理の遅延により整備延長が減少したため	平成25年5月頃
	指標3	鉄道事故件数	件/5年	6	平成19年度 4	平成24年度 0	2	○	あり なし	安全運行に向けた設備投資や基盤整備等への支援により、目標達成に寄与した	平成25年5月頃
	指標4								あり なし		
	指標5								あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	(主)長野上田線の自転車通行台数(平日12時間)	台/日	763	平成17年度	862	1,455	/	/	事業の実施や商業施設の開店により通行台数に大幅な増加があった。	-
	その他の数値指標2	区域内の歩道整備済延長	m	350	平成17年度	-	3,591	/	/	事業実施や関連事業の土地区画整理事業により大幅に整備済延長が増加した。	平成25年5月頃
	その他の数値指標3							/	/		
4)定性的な効果発現状況											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	平成23年度にモニタリング実施。 ①中間時点での状況確認②指標達成の見込み等の確認		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 整備計画に、中間年におけるモニタリング(中間評価)を予定することとした。			
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築	別所線再生支援協議会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、利用者拡大や安全輸送に向けた支援体制を継続する。			

様式2-2 地区の概要

千曲川リバーサイド地区(長野県上田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

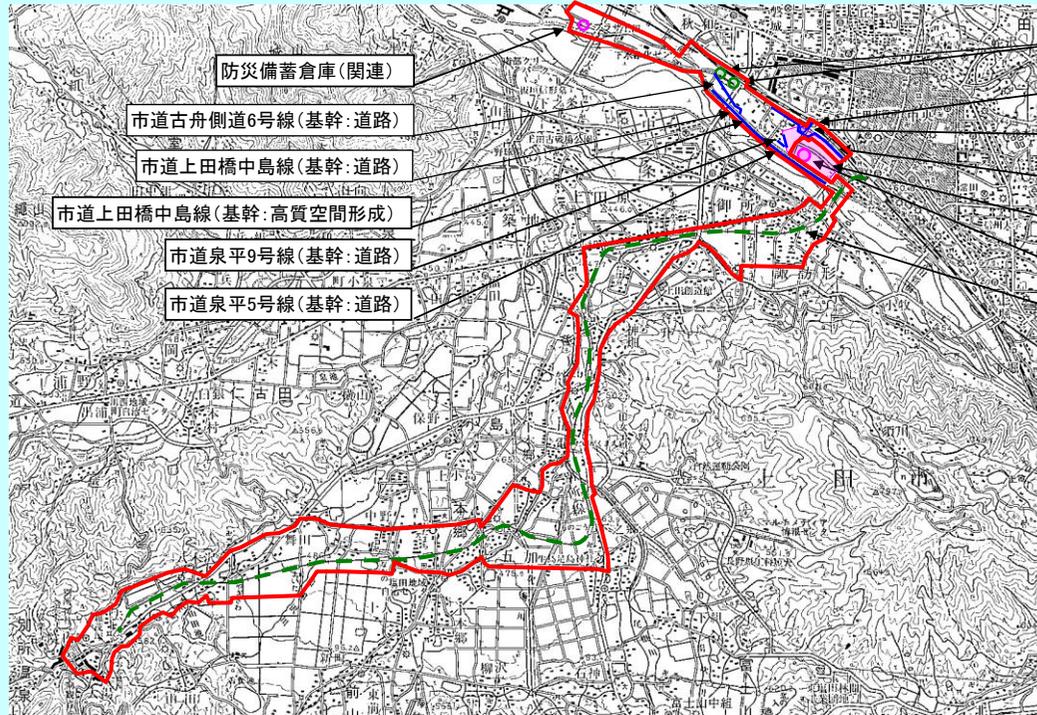
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
交流・文化・憩いを基本に新生上田市のシンボルとなる拠点整備を行う。 ① 交流文化施設を中心とする周辺道路等の基盤整備 ② 水害に強く、安全なまちづくり ③ 公共交通機関の支援による安全性と快適性の向上	(主)長野上田線の歩行者数	単位: 人/日 227	H17 340	H24 1,397
	区域内の歩道整備率	単位: % 11	H17 78	H24 60
	鉄道事故件数	単位: 件/5年 6	H19 4	H24 2
		単位:		
		単位:		



【市道上田橋中島線(基幹:道路及び高質空間形成)】



【市道南天神町坂下線(基幹:道路)】



【別所線再生支援事業(提案:地域創造支援)】

まちの課題の変化

- ・交流・文化施設を中心とした地区への広域的なアクセス道路である千曲川堤防道路が拡幅され、利便性が向上した。
- ・地区内で多くの歩道が整備され、歩行者にとって安全な空間が広がった。また、法面の緑化により歩行者がやすらぎや潤いを感じる場所となった。
- ・関連事業により実施した防災備蓄倉庫が完成し、浸水区域となっている天神、常磐城、塩尻地域における水害への備えが強化された。
- ・別所線への支援により、鉄道の安全性や利便性が向上し、地域の足の確保に繋がっている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・交流・文化施設と上田城跡公園を結ぶ新設道路と、堤防道路の一部が未完成であるため、引き続き整備を進め回遊性や利便性の向上を図る必要がある。また、利用者の視点に立った案内標識等の整備も推進する必要がある。
- ・道路の建設だけでなく、地域特性を活かし景観にも配慮した緑地・緑化等の施設整備を進める必要がある。
- ・100戸を超える新たな住宅団地が誕生し、次世代を担う子供たちを含め多くの住民が居住するようになった。そのため、安心して利用できる通学路の整備や防災面においても安心して暮らせる環境整備が必要である。
- ・公共交通の一翼を担い、低炭素まちづくりに寄与する地方鉄道(地域の足)の安全運行を確保するため、基盤整備や設備投資等に対し、引き続き支援を継続する。